

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和5年11月20日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	3870105644
事業所名 (ユニット名)	グループホームあいじゅ 寿ユニット
記入者(管理者) 氏名	大栄 幸枝
自己評価作成日	令和5年10月28日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 あわてず、おこらず、心穏やかに</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ① 毎朝の体操、一人ひとりに合った歩行練習、手スリを持って足上げ、踵上げ等ケアプランにあげ実施。廊下に距離を書いて皆に分かるようにしている。 結果・・・1名体調崩され特養移動、1名脳梗塞後遺症でU字型歩行器から車椅子になる。他の方は現状維持 ② 毎日の口腔体操、唄、朗読、早口言葉等取り入れている。何かあれば早期の受診につなげている。 毎月歯科衛生士による勉強会、食事形態その人に合せている。歯みがきもうまく出来ない人等に歯磨きなおし、介助している。 結果・・・利用者全員口から摂取されている。口の中にため込み中々飲み込めない、小分けして少しずつ食べて頂く、見守りしている。職員も口腔内を意識するようになった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は、国道から小野川を渡った場所にある高齢者総合福祉施設の敷地内に併設されて建てられている。敷地内には家庭菜園があり、利用者と一緒に野菜づくりをしたり、広い敷地内を散歩したりすることもできる。法人は、県内に高齢者福祉施設や介護サービス事業所などを多く展開している。また、職員から出された意見や要望は、管理者を通して施設長に伝えられ、職員は安心して働くことができ、長年勤務する職員も多い。さらに、協力病院が近くにあり、利用者で状態の変化が見られた場合にも迅速に対応することができ、利用者や家族、職員の安心感に繋がっている。コロナ禍や感染対策が続き、家族との面会は窓越しで行われ、利用者の顔を見て会話してもらおうと、家族に要望に応じて、感染対策を講じながら、お墓参りなどに出かける利用者もおり、可能な限り柔軟な支援に努めている。加えて、日常生活の中には、毎月、生け花や習字、工作のクラブ活動のほか、おやつ作りなどの機会が設けられ、利用者は好きな活動やレクリエーションに参加するなど、楽しみや張り合いのある生活を送れるように取り組んでいる。</p>
------------------------------------	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	利用者、家族との会話の中から思い等をくみ取りたり情報提供表やフェンスシートを活用している。	○	/	◎	入居時に、管理者等は利用者や家族から暮らし方の希望や意向を聞き、基本情報表やアセスメントシートに情報を取りまとめて記載をしている。また、日常生活の中で、職員は利用者の思いに気づくことができるように意識した対応をしている。把握した情報は、記録に残すとともに、口頭で伝達し、職員間で共有をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	情報提供表、フェンスシート等活用しながら利用者、家族、職員と良く話し合っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族、親戚、本人と共に良く話し合い思いや希望を聞いている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	24時間シートや、日誌、申し送りノートに書いて皆で共有している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	思い込みや、決めつけにならないよう利用者との会話を大切にしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	本人や家族、親せきに聞いている。今はコロナ感染予防のため面会は、窓越なので、友人は来られないので聞く事が出来ない。	/	/	◎	これまでの利用者の生活歴や生活状況等は、基本情報表やアセスメントシートを活用して、管理者等は利用者や家族から聞き取りをしている。また、利用していた介護サービス事業所や居宅介護支援事業所の担当者等から情報を聞き、アセスメントシートや情報提供シートなどに記録を残し、個別のファイルに保管をしている。職員は、アセスメントシート情報などを確認するとともに、利用者とのコミュニケーションを図る際に、情報を参考にしながら、以前の仕事や趣味、好きな話題などの取り入れるようにしている。さらに、アセスメントシートには、新たに把握した情報を随時追記するとともに、介護計画の更新時に合わせて見直しを行うなど、情報の更新をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	利用者、家族と話し合い出来る事はしてもらっている。出来そうな事は本人に聞いて職員と話しあったりして一度してもらったりしながら現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の暮らしを24時間シートに記録、何かあれば申し送りノートに記録し共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	把握した情報をもとに本人、家族、職員で話し合いながら検討している	/	/	◎	事前に、利用者や家族から意見や要望を聞き、医師や看護師等からアドバイスを受け、把握した情報をもとに、利用者の視点に立ち、どのようなことを求めて、何が必要なのかを職員間で検討している。また、ケアカンファレンスなどの中で、利用者や家族の要望を聞いて把握し、サービス内容に反映されるよう努めている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	検討に基づき本人の気持ち大切に安心して暮らしている様に課題の把握に努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人や家族の思い希望を聞きながらプランに上げている。	/	/	/	各ユニットの計画作成担当者が、把握した内容をもとに、利用者ごとの担当職員や、他の職員の意見も取り入れながら介護計画の原案を作成し、管理者が最終の確認をしている。また、利用者や家族の意見や要望のほか、主治医等の指示やアドバイスなどを反映し、具体的なサービス内容を取り入れ、個性のある計画作成にも努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	1ヵ月ごとにモニタリングを行っている。何か課題があれば、本人や家族と相談している。対応が難しい時は、他の関係者に相談して作成している。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度になっても日々の過ごし方や安心して暮らせるような内容になっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族との協力体制は取れているが、コロナ禍で地域との協力体制は取れていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	1か月ごとのモニタリングを行い24時間シートに記録しているのを把握、理解している。何か有れば皆で話し合い共有している。	/	/	/	ケアカンファレンスなどの中で、介護計画の内容を職員間で共有するとともに、職員が確認しやすいように、一人ひとりの利用者の24時間シートに番号を付けて、日々のサービスの実施の有無や状況を記録に残している。また、月1回モニタリングを行い、職員間で介護計画に沿ったサービスの実施状況のほか、利用者の現状を確認している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	プランに沿って実施様子など記録している、何か有れば職員同士話し合い支援につなげている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	利用者によって3ヶ月、6ヶ月の方がいる、期間に応じて見直ししている。	/	/	/	介護計画は、3か月に1回を基本として、見直しをしている。また、担当職員が一人ひとりの利用者のサービスの実施状況等を確認して、モニタリングを行い、月1回カンファレンスの中で、計画が利用者の現状に応じた内容になっているかを確認している。さらに、計画の見直し前には、計画作成担当者が評価をしている。加えて、大きな身体状況等の変化が見られた場合には、随時話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	1か月ごとにモニタリングを行っている。何か課題があれば、本人や家族と相談している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人に変化があれば其の都度本人、家族等その他関係者と話し合う、現状に合った新たなプランを作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月末モニタリングを行っている、課題、緊急案件がある場合には其の都度話し合っている。	/	/	/	ユニットごとに、月1回ミーティングとカンファレンスを行い、職員間で情報共有や伝達、意見交換をしている。なるべく多くの職員が会議に参加できるように、事前に日程や時間などの調整をしている。また、参加できなかった職員には会議の議事録を確認してもらうとともに、重要事項は口頭で伝えるなど、職員間の情報共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	会議は、担当の方から話して頂きそれについて意見を出し合ったり、気づきなど意見交換が出来るやすいよう気を付けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	会議は、出来るだけ多くの職員が参加出来る様調整している参加出来ない職員には伝達研修を行い共有している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	日々の申し送り、情報伝達等は申し送りノート、日誌、24時間シートに記録し皆で共有している。	○	/	/	日々、職員の勤務交代時に、申し送りを実施している。必ず出勤時に申し送りノートを確認し、確認後に職員は押印し、情報の伝達漏れがないようにしている。毎日記録する一人ひとりの24時間シートには詳細な記録が残され、利用者の1日の流れがよく分かり、職員は状況を把握しやすくなっている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者に何かしたいことないか等聞きながらそれを叶えられるよう努力している。コロナ禍で外出、外食は中止面会も超越なので難しい所もある。	/	/	/	毎月、生け花や習字、工作などのクラブ活動の機会が設けられ、利用者は好きなことを選んで参加をしている。利用者自らが飲み物や着る物などを選ぶ機会が多いほか、自分で選択をすることが難しい利用者には、職員が季節に応じた数種類の服を提案するなど、自己決定してもらえるような工夫をしている。また、月2回のおやつ作りや敬老会の行事などを取り入れ、利用者を楽しみのある生活が送れるよう取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	行事、クラブ、等参加はほとんど自分で決めてもらっている。又入浴時の着替えも職員が用意し利用者に選んでもらっている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	出来るだけ自分のペースであわせて頂いているが介助が必要な方は声掛けしながら本人の気持ちを大切にしている排泄はチェック表を参考に声掛けしている	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	コロナ禍で色々制限がある中10月にミニ運動会実施皆々元気な体動かし笑いも見られた。今は、笑いのある生活が送れるよう支援していきたい。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	意思疎通が出来にくい利用者でも表情、言葉のはしばから読み取ることもできる本人の希望に沿った暮らしが送れるよう支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、自立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	不適切ケアチェックを行い、人権、尊厳を大切に支援している。人前で大きな声でトイレの声掛けしたり、横を通る時無視したりすることのないよう、常に意識して行動するよう心がけている	○	○	○	勉強会等の中で、人権や尊厳、プライバシーなどを学び、職員は理解をしている。年4回、法人独自の不適切ケアチェック表を活用して、職員は自己評価や振り返りを行っている。チェック表には、「排泄時の声かけ、おむつやパッド類を目につく場所に置いていないか」などの項目が設けられ、職員はあからさまな言動が行われていないかの注意喚起にも繋がっている。また、居室の入室時には、ノックや声かけをしての入室の周知徹底を行い、利用者がリビングにいる場合にも、一言声をかけてから、入室することができている。さらに、作成した接遇の標語をリビングに貼り出し、日頃から職員は声かけや言動に注意を払い、意識した対応を心がけている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排泄時、入浴時声掛け、プライバシーには気をつけている。利用者が嫌な思いをしない様配慮しながら介助を行う。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る時は本人に説明して許可をもらってから入っている。おられない時は、ノックして十分に配慮しながらは入っている	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	利用者のプライバシーや個人情報漏えい防止については理解し遵守している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	職員は、利用者から学ぶ事も多い、お互いに「ありがとう」と言える関係性を大切にしたい	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性や性格などを把握し、配席の考慮をしたり、注意深く見守りをしたりするなど、大きなトラブルが起こらないよう心がけた支援に努めている。また、利用者が孤立することなく、穏やかに生活が送れるように、職員は間に入り、利用者同士の仲を取り持つなどの支援にも努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	職員は、利用者同士が共に助け合い支え合って暮らしていくことの大切な事を理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	利用者同士一方的に思い込み誤解されている時もある職員が中に入り話しても聞き入れようとしない時間を置いて対応するが聞き入れようとされないで席替えて様子見る、横に座られた利用者が良く話しかけられるので今わトラブル事もなく過ごされている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	利用者同士のトラブルは思い込みが多い職員がいくら説明しても聞き入れようとはされない様子見ていると次第にお落着かれる、他の利用者に不安がられないよう寄り添っている	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	基本情報やフェンスシート等を活用したり本人、家族から聞いたりしている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	今は、コロナ禍で面会も窓越で行っている。ドライブも車窓からなので友人に会ったり馴染みの場所へ出かけることの支援は余力出ていない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	意志表示が困難な方で体調に気を付けながら外に出れる用支援している。外出の時間帯等は、GHの車、運転手が居ないで他の部署から来て頂いている為日程が変更になる場合もある。	○	x	○	コロナ禍や感染対策が続き、外出制限が続いていたが、月1回デイサービスの車を活用して、車いすの利用者も一緒にドライブに出かけ、お寺の参拝やコスモスの花を見に行けるようになり、利用者に喜ばれている。希望に応じて、家族と一緒に、お墓参りなどの外出をする利用者もいるが、その後の数日間は居室内を中心に生活を送ってもらうなどの感染対策を講じている。また、天気の良い日には、敷地内に出て、散歩や外気浴をしたり、駐車場でバーベキューをしたりするなど、外の空気を感じながら、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	今は、コロナ禍で出来ていない。家族による外出は出来ている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	職員は認知症等の研修、勉強会などで理解している。利用者の状態が変化した場合24時間シートの記録を参考に職員同士で話し合い共有し、支援している。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりのできることや一緒に行えばできそうなことを把握し、過剰に手や口を出し過ぎないように見守りや待つ介護に努めている。介護計画の中に、筋力維持のためのスクワットや歩行訓練を取り入れ、心身機能の維持を図る利用者もいる。廊下には、利用者の歩いた距離が分かりやすいように表示し、次回のリハビリの際に、やる気に繋がるような工夫も行われている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	毎日朝の体操、朗読、唄、口腔リハビリ等を行い現状維持に努めている。又排泄面、日中は、トイレ誘導を行いオムツにならない様支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	利用者の出来る事はしてもらっている。おやつ作りは一緒にしている。洗濯もの干し、たたみ等はして頂いている少しでも役割が持てる様支援している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	基本情報やフェンスシート等を活用したり本人、家族から聞いたり。一緒にいると本人の楽しみ事がわかることがある。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、テーブル拭きなど、生活の様々な場面で、職員は声をかけ、利用者の負担にならない程度に、得意なことや好きな役割や出番を担ってもらえるよう支援している。高齢化や重度化に伴い、利用者のできることは減ってきているものの、おやつ作りの際に材料を混ぜてもらったりなど、少しでも役割を担ってもらえるような支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	利用者が楽しく過ごして頂けるよう、行事、クラグ、風船パルなど本人の楽しみ、洗濯もの干し、たたみ等役割、出番が、少しでも作れるよう支援している。	○	○	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	利用者の中には、毎日4～5回服を着替えたり、髪を整えたりアクセサリーを身に付けて楽しんでいる。職員も把握している				各居室には、洗面台が設置され、起床時に、職員は声をかけ、着替えや身だしなみを整えてもらい、見守りやできない部分のサポートをしている。中には、電気シェイバーを使用して、器用にひげを剃る利用者もおり、職員は剃り残しなどの確認をしている。また、整容の乱れや汚れが見られた場合には、利用者の羞恥心に配慮して、さりげなく声をかけてフォローをしたり、居室に移動して着替えてもらったりなどの対応をしている。さらに、2か月に1回訪問理容の来訪があり、利用者のタイミングに合わせて、好みの髪型に整えてもらうとともに、状態に応じて、ベッド上で散髪をしてもらうなどの対応をしている。現在、事業所には寝たきりの利用者までではないものの、ベッド上で過ごすことが多い場合にも、日中には洋服、夜間にはパジャマに着替えてもらうなど、メリハリのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	利用者ひとり一人の個性、好みを大切にしている。髪型も自分で言われる方もいる、服装も自分の好みのもを着られている。出来るだけ好みのものを支援している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	自己決定がしにくい利用者には職員が寄り添い本人の気持ちに沿って支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	コロナ禍で外出は、車窓からのドライブだけ後は中止している。その人らしい服装で楽しめるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカパーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	整容の乱れ、汚れ等に気が付いたらさりげなく居室に戻りカバーしている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	今は、コロナ禍でこちらに来られている移動美容室を利用されている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	重度な状態であっても整容、服装等本人らしさを保てる様支援していきたい。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	職員は食事の一連プロセスの意味や大切を理解している。				隣接の複合施設の厨房で調理された食材が毎食届けられ、各ユニットで職員が炊飯や汁物作りを行い、盛り付けをして利用者に食事を提供している。コロナ禍や感染対策が続き、利用者が盛り付けを手伝うことは休止しているが、毎月一緒におやつ作りが行えるようにしている。アレルギーや苦手な食材に配慮し、代替えのメニューを用意することもできている。また、季節に応じた行事食や懐かしさを感じるメニューも取り入れ、食事が利用者の楽しみになるよう工夫している。食器類は、入居時に使い慣れた物を持参して使用することもできる。利用者の状態に応じて、刻み食やミキサー食などの食の形態にも対応をしている。感染対策もあり、食事の際に、職員は利用者の見守りや介助を行い、利用者との時間帯に食事を摂っている。さらに、ほとんどの利用者はリビングに出て、食事を摂ることができおり、食事の準備の音や匂いを感じることができるとともに、リビングのホワイトボードには1日の献立が書かれ、食事が待ち遠しくなるような工夫も行われている。加えて、施設の管理栄養士が作成した献立は栄養バランスが取れ、職員間で食べやすい食の形態などを話し合うとともに、必要に応じて、管理栄養士に相談することもできている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	食事は、厨房から出ている。利用者職員で行っている事は、おやつ作り。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	今は、おやつ作りを職員と一緒にやっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者の苦手なもの、アレルギーの有無については把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音つかしいもの等を取り入れている。	○	献立は施設の管理栄養士が立てている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者一人ひとりの状態あわせている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	茶碗、コップ、箸などは、個人で持ってきて頂いてる。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者の中には介助が必要な方口の中に次々と入れられる方もおられるので職員は、時間をずらしている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	重度な状態であってもご飯炊きや、カレー、すまし汁等はユニットごとで調理しているので匂い音や雰囲気作りには気を付けている。		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養バランス、カロリーは施設の管理栄養士が行っている。水分摂取量の少ない人はチェック表に記録し少しでも多く摂取出来る様声掛けを行っている				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	利用者の中には、やおやつ、飲み物もジュース、コーヒー持ってきて来られている。食事、水分チェック表に記録し参考になっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	食事は、厨房から出ている為行っていない、			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食器、調理道具等の消毒は、1週間に1回行っている(食中毒予防のため)				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの研修を毎月実施、重要性を理解している。	/	/	/	毎月、歯科衛生士の資格を持つ法人内の職員に指導してもらうとともに、定期的に研修を実施し、職員は口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、各居室の洗面台で口腔ケアを実施し、必要に応じて、見守りやサポートをしている。介助が必要な利用者の口腔内の状況までは確認することができていないため、今後は、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認し、記録に残せることを期待したい。さらに、利用者の訴えや異常が見られた場合には、早期の受診に繋げている。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	自分で歯磨きされている利用者には、何か訴えがあった時確認している。介助が必要な利用者については口の中、舌の状態、義歯、等確認している。	/	/	/		○
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯科衛生士から指導を受け日常の支援に活かしている。	/	/	/		/
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯の洗浄は利用者にして頂いている、ポリドントは職員が入れ預かっている。	/	/	/		/
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	口の中の汚れ、臭い、等見られる方は家族にお願いしてモンダミン、イソジンを貰ってきて頂いている。何か有れば受診の支援を行っている。	/	/	/		/
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	職員は理解している、日中はトイレで排泄が行えるよう介助行っている。立位が少し困難になってきた人も二人介助でトイレ誘導を行っている。	/	/	/	事業所では、可能な限り利用者がトイレで排泄できるように、声かけやトイレ誘導をしている。チェック表で一人ひとりの利用者の排泄状況を把握し、職員はタイミングを図りながら、こまめな声かけやトイレ誘導を行い、パッドの使用の必要なくなった利用者もいる。ほとんどの利用者は紙パンツを履いて生活を送っているが、不安等から夜間のみおむつを使用している利用者もいる。また、利用者の排泄状況に応じて、パッドや紙パンツなどの排泄用品の適切な使用を職員間で話し合い、家族等に相談の上で使用をしている。さらに、立位を取ることが難しい利用者にも、日中には2人体制でトイレでの排泄介助を行うこともあり、安易におむつに頼らないような支援にも努めている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	職員は、便秘にならない様水分摂取や、廊下を歩行練習して予防に努めている。	/	/	/		/
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排尿チェック表に記録しパターンの把握に努めている。	/	/	/		/
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	紙オムツ、紙パンツ、パット等必要になった時、利用者家族、職員で話し合っている。大きさもその時々状態を支援している。	/	◎	/		◎
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	食事や、水分量、排尿パターンを把握しながら改善出来ないか職員どうして話し合っている。	/	/	/		/
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表に記録しその人に合わせ声掛け誘導を行っている。	/	/	/		/
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	オムツ、紙パンツ、パットなど使用する時は、本人、家族、職員等で話し合っている。パットもその時によって変えているパット等はトイレに流さない様見守りを行っている。	/	/	/		/
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者一人ひとり使い分けている。	/	/	/		/
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	毎朝、10:00～体操、咽、口腔リハビリなど利用者に合わせる。廊下を歩いたり、水分、食事にも気をつけ予防に努めている。	/	/	/		/
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	個浴で一人づつゆっくり入ってもらっている。午後からは入りたいと希望があれば午後から入っている。入るのを拒否された場合は本人の気持ち大切にしている。	/	/	/	週2回を基本として、午前中の時間帯を中心に、利用者が入浴できるよう支援している。入浴できる曜日や時間帯を決めているものの、利用者の希望や状態により、午後の時間帯のほか、入浴できる曜日を変更するなどの対応をしている。現在は、「毎日入浴したい」などの希望のある利用者はいないが、管理者は「今後、希望が出された場合には、できる限りの対応をしたい」と考えている。また、浴槽にはリフトが備え付けられているものの、利用者の身体状態に応じて、2人体制で入浴介助を行い、安心安全に湯船に浸かってもらえるようにするなどの支援も行われている。	
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	一人づつゆっくりと入ってもらっている。本人に合わせている。	/	/	/		/
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人に洗える所は洗ってもらっているが、洗い直したりする場合もある。安心して入浴できるよう支援している	/	/	/		/
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	入浴を嫌がる方には話を聞いて再度声掛けする。無理押しはせず気持ちよく入って頂くよう心がけている	/	/	/		/
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前はチェック表でバイタル確認、何かあれば看護師、職員同士で話し合っている。その後も様子観察している。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	◎	◎	事業所には、入居前から継続して睡眠導入剤や安定剤を服用している利用者のほか、入居後に服薬を開始した利用者があるものの、状態を確認して医師と相談しながら、必要以上の服薬になっていないかなど、服薬に頼りすぎないような支援に取り組んでいる。また、外気浴を取り入れたり、体操や歩行などを促したり、1日の過ごし方や職員への対応を工夫するなど、夜間に利用者が良眠できるように支援している。現在は、ほとんどの利用者は夜間に安眠し、十分な休息も取ることができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	夜眠れなかつたりした時は、本人や職員に聞きながら日中の活動を増やしたり、ドライブに参加の声掛けをしている。昼夜逆転しない様見守っている。	◎	◎	◎	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	24時間シート、日誌等参考にし主治医と相談しながら支援を行っている。	◎	◎	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者の体調を看たり、本人に声掛けしている	◎	◎	◎	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人から訴えがあった場合は、取り次いでいる。近況報告や、年賀状書かれる利用者には支援している。	◎	◎	◎	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	こちらから近況報告出す時声掛けし一言でも書いて頂くよう、声掛けし、支援している。	◎	◎	◎	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	自分で携帯持っている人は自由にかけられている。電話は事務所の中なので配慮している。	◎	◎	◎	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙は、本人に渡し読んで頂いている、読めない人は職員が支援している。	◎	◎	◎	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族も理解し協力してもらっている。面会時にまたお手紙出してあげて下さいとお願している。	◎	◎	◎	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	職員は、理解している。	◎	◎	◎	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	コロナ禍で買い物、外食等は中止している。以前は移動販売(とくまる)が来ていたので利用していたが今は来ていない。	◎	◎	◎	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	家族と相談して自分で持たれている方もおられる。とくまるが来るようになったら支援していきたい。	◎	◎	◎	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	本人や家族と話し合っている。	◎	◎	◎	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	利用者のお金は預かっていない。持ってる人は、自分で管理されている。	◎	◎	◎	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	出来るだけニーズに合わせこちらで対応できる事、があれ取り組んでいきたい。	◎	◎	◎	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、徐々に緩和され、利用者や家族から要望が出された場合には、可能な範囲で対応をしている。面会は、玄関内でガラス越しの面会のほか、予約の必要はなく、気軽に家族は面会や差し入れを持っていくことができる。家族の希望により、家族と一緒に墓参りや実家に立ち寄る利用者もいるが、外出後のリスクに備えて数日間は居室で対応するようになっている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関は防犯防止の為施錠している。玄関や建物周囲は南天、樅木等に囲まれている。	◎	○	○	敷地の入り口には、複合施設や事業所の看板が設置され、駐車場も完備されるなど、幹線道路から近く、車で来訪しやすくなっている。また、敷地の奥側には事業所があり、玄関扉はガラス張り、事務所にいる職員から来訪者に気づきやすくなっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えにされていない等。)	◎	室内は、全部バリアフリーになっている。廊下、トイレ、浴室など手スリになっていて安全面にも配慮している。リビング、廊下には季節感のある壁面が飾られている。コロナ禍で対面にならない様に座っている。家庭的な雰囲気になるよう気をつけている。	○	○	◎	自然光が入り明るいリビングには、ゆったりと座れるソファが置かれ、利用者はテレビを見るなど、ゆっくりとくつろげるようになっていく。懐かしさを感じられる家具類は譲り受けた物が多く、テーブルクロスを使用するなど、温かみを感じることができる。また、清掃や消毒は、職員が徹底して行い、温度や湿度にも配慮して加湿器で適時保湿を行うなど、快適な空間となっている。訪問調査当日には、紅葉やクリスマスの装飾が行われ、華やかない雰囲気を感じられた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除は、午前中と夜勤者2回行っている。整理、整頓に気をつけている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	リビング、廊下等には季節感のある壁面が飾られている。ワーククラブでも季節感あるものを取り入れている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	コロナ禍でリビングの席は1人づつか、対面に座っている為広く使用している。1人に慣れる場所は、個室になっているので居室で過ごして頂いている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	本人が大切にしていた物、使い慣れたものを持って来て頂いている。本人が、安心して過ごして頂けるよう工夫している。	◎		◎	居室には、ベッドやエアコン、クローゼット、タンス、洗面台が備え付けられている。利用者は、使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むことができ、テレビのほか、家族が作成した愛犬の写真入り色紙や好きなアスリートの写真などを飾り、居心地の良い空間となるよう支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	利用者が安全に自分の事が少しでもできるよう配慮、工夫している。			◎	◎ 共用空間は、廊下を挟んでリビングと居室が配置されたシンプルで分かりやすい構造で、トイレや浴室の表示を分かりやすく表示するなどの工夫をしている。自分の部屋の場所に迷う利用者の居室の入り口には、名前を貼りつけ、認識しやすくしている。また、手作りの日めくりカレンダーや大きな時計が設置され、分かりやすい数字で月日や時間を確認することができるようになっている。さらに、本棚から自由に本や歌詞本などを取ることができるようになっている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	利用者の中には居室に夜間、お茶の入った急須湯呑用意している小さい鉢に観葉植物を植えたのを世話されている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らすこと、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることも済むよう工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	日中玄関に鍵をかけることの弊害がある事は理解している。間仕切りの出入り口は、日中は開けている事が多い。防犯予防のため職員の数も少ない、見守りが不十分であるが玄関には鍵をかけることなく済むよう工夫していきたい。	×	◎	△	職員は勉強会等で学び、鍵をかけることの弊害を理解している。法人・複合施設の方針もあり、近くに幹線道路があることから、利用者の安全面や防犯面を考慮して、玄関の自動ドアを常時施錠している。玄関と共用空間の間にある間仕切りの自動ドアを開け、少しでも開放的に感じられるようにしている。以前は、各ユニットの入り口を開放し、ユニット間を自由に歩き来できるようにしていたが、感染対策のために施錠をしている。また、利用者が外に出たい場合には、管理者が付き添って敷地内を散歩したり、ゆっくりと話を聞いたりするなど、利用者の気持ちに寄り添うような支援にも努めている。利用者家族等アンケート結果から、鍵をかけないケアの取り組みに対して、家族に十分な理解が得られていないことが窺えるため、説明や周知方法を職員間で継続して検討していくことも期待される。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	帰宅願望がある家族は安全を優先させるかともおられる。出来るだけ外に出る機会をふやし、家族とも話し合っていく。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	職員は、基本情報、アセスメント、サマリー等で共有している。理解出来ない事があれば看護師に聞くようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者に何か有れば24時間シート、日誌、申し送りノート等に記録して早期発見出来る様共有している。				
		c	気になることがあれば看護師やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になることがあれば看護師やかかりつけ病院に相談している。重度化にならないよう早目に相談して適切な入院につなげる場合もある。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	利用者、家族と相談し希望する医療機関、医師につなげ受診出来る様支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人、家族の希望を大切に、納得が得られた病院と、事業所の関係を築きながら適切な医療が受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	病院の対応は家族にしている。家族が行けない場合病状によっては看護師が管理者が同行する場合もある。結果の報告は家族、施設に報告される。家族が行けなかった場合は、主治医の方から家族に報告される。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院する場合医は、情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	安心して治療が出来るよう関係者との情報交換をおこなう。利用者が病院では落ち着かないので予定より早く退院して帰ってくる場合もある。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	職員は気づき、情報などかかりつけ院や協力医療機関、看護師に相談している。。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	かかりつけ医療機関に24時間いつでも相談できる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	健康管理や状態に変化があれば、支援が適切に出来る体制を整えている早期発見、治療につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	職員は、薬などの目的や、用途、用量など医師や看護師、処方箋などで理解している、わからなかったらインターネット等で調べている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	利用者の服薬支援はマニュアルに沿って支援している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	利用者のバイタルチェック等を参考に本人の心身の状態や表情、便秘の様子など変化がないか様子観察をおこなっている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入所時や状態変化があった場合に本人、家族と話し合いその意向を確認しながら方針を共有している。				事業所では、「看取りに関する指針」を整備し、入居時に家族等に対応できることなどを説明し、意向を確認している。また、状態の変化や重度化した場合には、再度家族の意向を確認するとともに、医師や関係者を交えて話し合い、方針を決定している。さらに、複合施設や協力医が近くにあることから、転院する利用者も多く、事業所として、今までにほとんど看取り支援を経験していない状況となっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化した場合、終末期のあり方本人、家族主治医に話し合い方針を共有している。GHでの看取りの体制が整っていない事を伝えている。出来るだけGHで過ごして頂き最後医療機関が特養に本人、家族、医師と話し合っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	利用者の重度化によって現状ではどこまで対応出来るか見極めを考えている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所説明の時どこまで対応できるか説明している。重度化によって対応出来るか話し合いながら進めている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を固めながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期に入ったらチームで支えていく体制が整っていない。今後の変化に備えて話し合いながら進めて行く。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族に寄り添い、傾聴しながら支援していきたい 思い詰めないように支えていきたい				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	職員は、研修等に参加して学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症が発生した場合マニュアルに沿って対応している。シュミレーションも手順に沿って出来るよう実施している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	5類に移行してからは対応していない。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は、手洗い、うがい、消毒継続して行っている。利用者にも声掛け、介助を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	今は、コロナ禍で面会も休憩になっているので家族とお話する事も少なくなった。一緒に本人を支えていけるよう支援していきたい。	/	/	/	以前は、家族会を実施することができていたが、コロナ禍や感染対策が続き、現在は開催を休止している。また、現在は家族の参加できる行事やイベントを開催することはできていない。運営推進会議は書面開催が続いていたが、令和5年の夏から、集合形式の会議が再開され、家族にも案内を送付し、1名ずつ参加してもらうようになっている。年4回事業所便りを発行し、家族に送付して利用者の様子を伝えるとともに、月1回事業所の行事をカレンダー様式にまとめて送付をしている。さらに、担当職員が手紙を書くほか、来訪時や電話連絡時を活用して、家族に利用者の近況を伝えている。加えて、家族との面会は、窓越しの状態となっているもの、事前予約を必要とせず、気軽に家族が面会に来訪できるようになっている。利用者家族等アンケート結果から、事業所の出来事や職員の入退職が十分に伝わっていないことが窺えるため、事業所便りを活用して、新たに配属された職員を紹介したり、面会時に職員の異動をお知らせしたりするなど、理解が得られるような取り組みが行われることを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	◎	コロナ禍で出来ないがGH前を娘さんと時々散歩されている方がおられる	○	/	◎	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	面会に来られら時、会話の中でくみ取ることが出来るよう努めている。利用者の暮らしぶり様子が分かるようGHだより写真いりて発行し送付している。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	本人より一度家に帰りたい、お墓参りに行きたいとの希望があつたがコロナ禍でいけなかったが10月末に行く予定になった	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	行事予定表、職員の移動、退職は(運営推進会議の資料にて報告)設備改修、機器の購入は行っていないが必要に応じて報告したい。	x	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	◎	利用者へ起こり得るリスクについては家族に説明し話合っている安全、安心して暮らして頂けるよう努める。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	今は玄関での面会なので落ち着いて職員とお話しが出来る様な雰囲気作り等に努めたい。早く自由に面会が出来るような日常生活が戻るようになれば次のステップに踏み出す事が出来ると思う。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約が終了後、内容に変更がある場合説明を行い理解、して頂けるよう努める	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	転居については、前もつてお話し、しているので、理解して頂けるよう、主治医からも説明して頂く事もある。退去先に移れるよう支援を行っている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	コロナ禍で地域との交流は4年ほど中止になっている。交流が出来る様になれば改めて説明、理解して頂けるよう努める。	/	○	/	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	面会が自由に出来る様になれば地域の人達とも交流を図りたい。日頃から交流出来るよう働きかけたい。	/	x	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	利用者、が地域の中で少しでも多くの人に支えてもらいながら安心して暮らして行けるよう支援を行いたい。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	お祭りに、提灯行列、翌日お神輿が入り見学する事が出来た	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	今は、出来ていないが、お祭りに、提灯行列、翌日にはお神輿が入り見学する事が出来た	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりを充実させることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	お祭りには、民生委員の方の協力により夕方、子供達がGH玄関まで提灯行列に、翌日にはお神輿が入り見学する事が出来た。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	x	今は、出来ていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	運営推進会議には、コロナ禍でまだ面会が出来ない為利用者の参加は中止にしている。	○	/	/	コロナ禍や感染対策が続き、運営推進会議は書面開催が続いていたが、令和5年の夏から集合形式の会議を再開することができている。書面開催においても、アンケート方式で会議の参加メンバーに意見や要望を聞くとともに、対応方法などを記載した会議録を参加メンバーや全ての家族に送付することができていた。家族の参加は、現在1名ずつに限定しているが、民生委員や市担当者、地域包括支援センター職員などに、利用者の様子や行事などを報告し、意見交換をすることができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	運営推進会議の報告、外部評価等について報告。議事録を公表している。	/	◎	◎	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	今は、参加メンバーは増やしていない。日程、時間帯、は参加メンバーに聞いて調整している。	/	○	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	事業所の理念は当時の職員で考え決めた。見えやすい所に掲げ日常的に取り組んでいる。	/	/	/	大規模法人で、医師である代表者は事業所に来訪することは少ないが、日常的に、隣接する複合施設の施設長や副施設長の来訪があり、事業所内の様子を見たり、管理者から事業所の様子や意見を聞くことができている。必要に応じて、施設長等と管理者が相談するほか、職員から出された意見を伝えることもできている。訪問調査日にも、施設長と副施設長が調査に同席する場面もあり、事業所の取り組みの話が聞くことができた。また、感染対策もあり、職員が集まる機会は少ないものの、定期的に勉強会等を実施し、職員のスキルアップにも努めている。さらに、管理者は職員から意見を伝えやすい環境づくりを行うほか、時間外勤務を削減に努めたり、希望休や有給休暇の取得を促したりすることもできるなど、職員との良好な関係も築かれている。大規模法人であるが、基本的に、法人内の職員の異動も少なく、勤務年数の長い職員も多くなっている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	以前は、面会時等に伝えていたが今や玄関で窓越氏なので伝えてないことが多い地域の方との交流も中断して伝わっていない	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	計画的に法人内の研修を受ける事が出来ていたコロナ感染予防のため中止になっている。	/	/	/	大規模法人で、医師である代表者は事業所に来訪することは少ないが、日常的に、隣接する複合施設の施設長や副施設長の来訪があり、事業所内の様子を見たり、管理者から事業所の様子や意見を聞くことができている。必要に応じて、施設長等と管理者が相談するほか、職員から出された意見を伝えることもできている。訪問調査日にも、施設長と副施設長が調査に同席する場面もあり、事業所の取り組みの話が聞くことができた。また、感染対策もあり、職員が集まる機会は少ないものの、定期的に勉強会等を実施し、職員のスキルアップにも努めている。さらに、管理者は職員から意見を伝えやすい環境づくりを行うほか、時間外勤務を削減に努めたり、希望休や有給休暇の取得を促したりすることもできるなど、職員との良好な関係も築かれている。大規模法人であるが、基本的に、法人内の職員の異動も少なく、勤務年数の長い職員も多くなっている。
		b	代表者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	業務、入浴などがあり時間が中々取れないが出来る限り勉強会が実施出来るよう取り組んでいきたい。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	ベースアップ加算に対応し、職員のモチベーションアップに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	運営推進会議を行っている。地域のネットワーク作りにも参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレスチェックを年に1回実施している。話をしやすい環境づくりに努めている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	職員は、虐待、不適切ケアについて研修等参加、理解している。職員同士声掛けあいながら見逃ごすことのないよう気をつけている。発見した場合の対応方法は理解している。	/	/	◎	虐待防止委員会の中で話し合いをするとともに、勉強会等で虐待や不適切ケアの防止を学び、職員は理解をしている。また、法人独自の不適切ケアチェック表を活用して、年4回職員自らが記載し、利用者に対する声かけや言動を具体的に振り返る機会を設け、意識した対応に繋げている。さらに、不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者等から指導や注意喚起をしている。加えて、年1回職員のストレスチェックを実施するとともに、日頃から管理者は職員の様子に気を配り、声かけや相談に応じるなどの対応をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	職員と共に何かあればその都度話し合い決まった事は申し送りノート、日誌、24時間シートに記録し皆で周知している。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ストレスチェックを年に1回実施している。個人個人にアドバイスが書かれている。何か落ち込んでいないか気をつけている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	職員は、拘束はしないケアに取り組んでいる。「緊急やむを得ない場合」についてはみんな理解している。	/	/	/	大規模法人で、医師である代表者は事業所に来訪することは少ないが、日常的に、隣接する複合施設の施設長や副施設長の来訪があり、事業所内の様子を見たり、管理者から事業所の様子や意見を聞くことができている。必要に応じて、施設長等と管理者が相談するほか、職員から出された意見を伝えることもできている。訪問調査日にも、施設長と副施設長が調査に同席する場面もあり、事業所の取り組みの話が聞くことができた。また、感染対策もあり、職員が集まる機会は少ないものの、定期的に勉強会等を実施し、職員のスキルアップにも努めている。さらに、管理者は職員から意見を伝えやすい環境づくりを行うほか、時間外勤務を削減に努めたり、希望休や有給休暇の取得を促したりすることもできるなど、職員との良好な関係も築かれている。大規模法人であるが、基本的に、法人内の職員の異動も少なく、勤務年数の長い職員も多くなっている。
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修や、その場で身体拘束に当たるのか利用者や現場の状況を見ながら話し合う事もある	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	◎	家族から拘束の話があった場合、弊害について、身体拘束を行わないケアの取り組みをしていることを伝え、話し合いをしながらか理解して頂くよう支援を行う。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	研修には参加し理解している。相談があった場合は、説明が出来き支援を行う。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターには連携体制を築いている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	対応マニュアルを作成している。周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	毎年、消防署の方に来て頂き研修があり順番に参加していたがコロナ禍で中止になっている。勉強会を開き対応出来る様にしたい				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットに記録し話し合い再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	皆で話し合い、リスクや危険な場合見守りを強化して事故防止に努めている事故防止大委員会開催している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルは作成している。職員はそれを理解している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	今のところ地域からの苦情は、寄せられていない。寄せられた場合には、手順に沿って対応していきたい。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	今のところ苦情は来っていない。速やかに回答するとともに、納得を得ながら前向きな話し合いと関係作りを行え。るよう努めていきたい。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	玄関に、意見箱を置いている。契約時に本人、家族には説明している。	◎		◎	日々の生活の中で、職員は利用者へ声をかけ、意識して意見や要望を聞くとともに、思いをくみ取るようにしている。家族には、介護計画の更新時のほか、定期的に電話連絡や面会時に、職員から声をかけて、意見や要望を聞いている。また、窓越しの面会時にも、職員から家族に声かけ、利用者の様子を伝えるなど、話しやすい雰囲気づくりにも努めている。さらに、経験の長い管理者は、職員から意見や提案を伝えてもらったり、気軽に相談に応じたりするなど、出された意見を検討しながら、より良い支援に繋げている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	利用者、家族等に面会に来られた時伝える事もある				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	現場にも来られ、職員の話を直接聞く機会を作っている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員の意見や提案は聞くようにしている。利用者本位の支援をしていくための参考にしたい。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年1回自己評価実施している。				外部評価の自己評価は、管理者を中心に作成をしている。サービスの評価結果や目標達成計画は、運営推進会議の中で報告しているものの、文書開催に留まっているため、利用者家族等アンケート結果からサービス評価の取り組みに対して、十分な理解が得られていない状況となっている。今後は、集合形式の運営推進会議や家族会の中で、サービス評価の意義や目的を説明したり、目標達成の取り組み状況のモニターを呼びかけて、意見をもらったりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成計画を作成したx達成に向け取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	x	運営推進会議で報告している。アンケートでの報告なので意見は聞かれなかった。	x	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	x	運営推進会議はアンケートだったので確認はとれていない。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	対応マニュアルは作成している。	/	/	/	<p>複合施設と合同で、年2回火災や水害など様々な災害を想定した避難訓練を実施している。また、消防署の協力を得るとともに、水害を想定して、複合施設の2階に垂直避難する訓練も実施している。以前は、地域の防災訓練に参加協力をしたり、地区の防災士等と一緒に合同訓練を実施したりすることもできていたが、感染対策もあり、現在は自粛をしている。利用者家族等、家族アンケート結果から、災害の備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、今後は、運営推進会議に合わせて、避難訓練を実施して参加メンバーと意見交換をしたり、事業所便りを活用して、訓練の様子を知らせたりするなど、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。また、民生委員に災害発生時の緊急連絡先になってもらっていることもあり、負担の少ない支援方法の話合いが行われることも期待される。</p>	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	利用者が、安全に避難出来るよう訓練を計画、実施している。	/	/	/		
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備点検、避難経路の確認している非常用食料等行っている。	/	/	/		
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	合同訓練、話し合いコロナ禍の為出来ていない。支援体制は確保できている。	/	×	×		△
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	コロナ禍で共同訓練は出来ていない	/	/	/		/
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	コロナ禍で、できていない	/	/	/	<p>複合施設には、在宅介護支援センターや居宅介護支援事業所が併設され、地域住民から相談が寄せられた場合には、関係機関と連携を図りながら、適切に対応をしている。以前は、ボランティアの受け入れに協力したり、複合施設として、認知症カフェを開催したりすることもできていたが、感染対策が続き、現在は休止をしている。また、実習生の受け入れには協力をしている。さらに、会議や研修に参加する機会は減っているものの、市行政や地域包括支援センターなどと関係機関と連携を図りながら、良好な関係を築いている。今後は、感染対策の緩和に伴い、徐々に認知症カフェやボランティアの受け入れなどが再開していくことも期待される。</p>	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があった場合、居宅支援センターに取り次いでる。	/	/	△		○
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ禍で活用出来ていない。	/	/	/		/
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ禍で受け入れていない。	/	/	/		/
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナ禍で行っていない	/	/	/		○

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和5年11月20日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	3870105644
事業所名 (ユニット名)	グループホームあいじゅ 愛 ユニット
記入者(管理者) 氏名	大栄 幸枝
自己評価作成日	令和5年10月28日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 笑顔で、仲よく、まあいい心</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ① 毎朝の体操、一人ひとりに合った歩行練習、手スリを持つ横歩き、立位等ケアプランにあげ実施。廊下に距離を書いて皆に分かるようにしている。 結果・・・ほとんどの方が、現状維持ですごされている。元気傾向にある。 ② 毎日の口腔体操、唄、朗読、早口言葉等取り入れている。口腔内に何かあれば早期の受診につなげている。毎月歯科衛生士による勉強会、食事形態その人に合わせている。 結果・・・利用者全員口から摂取されている。職員も口腔内を意識するようになった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は、国道から小野川を渡った場所にある高齢者総合福祉施設の敷地内に併設されて建てられている。敷地内には家庭菜園があり、利用者と一緒に野菜づくりをしたり、広い敷地内を散歩したりすることもできる。法人は、県内に高齢者福祉施設や介護サービス事業所などを多く展開している。また、職員から出された意見や要望は、管理者を通して施設長に伝えられ、職員は安心して働くことができ、長年勤務する職員も多い。さらに、協力病院が近くにあり、利用者に状態の変化が見られた場合にも迅速に対応することができ、利用者や家族、職員の安心感に繋がっている。コロナ禍や感染対策が続き、家族との面会は窓越しで行われ、利用者の顔を見て会話してもらうとともに、家族に要望に応じて、感染対策を講じながら、お墓参りなどに出かける利用者もおり、可能な限り柔軟な支援に努めている。加えて、日常生活の中には、毎月、生け花や習字、工作のクラブ活動のほか、おやつ作りなどの機会が設けられ、利用者は好きな活動やレクリエーションに参加するなど、楽しみや張り合いのある生活を送れるように取り組んでいる。</p>
----------------------------------	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	利用者、家族との会話の中から思い等をくみ取りたり情報提供表やフェンスシートを活用している。	○	/	◎	入居時に、管理者等は利用者や家族から暮らし方の希望や意向を聞き、基本情報表やアセスメントシートに情報を取りまとめて記載をしている。また、日常生活の中で、職員は利用者の思いに気づくことができるように意識した対応をしている。把握した情報は、記録に残すとともに、口頭で伝達し、職員間で共有をしている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	情報提供表、フェンスシート等活用しながら利用者、家族、職員と良く話し合っている。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族、親戚、本人と共に良く話し合い思いや希望を聞いている。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	24時間シートや、日誌、送りノートに書いて皆で共有している	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	思い込みや、決めつけにならないよう利用者との会話を大切にしている	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	本人や家族、親せきに聞いている。今はコロナ感染予防のため面会は、窓越なので、友人は来られないので聞く事が出来ない。	/	/	◎	これまでの利用者の生活歴や生活状況等は、基本情報表やアセスメントシートを活用して、管理者等は利用者や家族から聞き取りをしている。また、利用していた介護サービス事業所や居宅介護支援事業所の担当者等から情報を聞き、アセスメントシートや情報提供シートなどに記録を残し、個別のファイルに保管をしている。職員は、アセスメントシート情報などを確認するとともに、利用者とのコミュニケーションを図る際に、情報を参考にしながら、以前の仕事や趣味、好きな話題などの取り入れるようにしている。さらに、アセスメントシートには、新たに把握した情報を随時追記するとともに、介護計画の更新時に合わせて見直しを行うなど、情報の更新をしている。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	利用者、家族と話し合い出来る事はしてもらっている。出来るような事は本人に聞いて職員と話しあったりして一度してもらったりしながら現状の把握に努めている。	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	日々の暮らしを24時間シートに記録、何かあれば送りノートに記録し共有している。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	把握した情報をもとに本人、家族、職員で話し合いながら検討している	/	/	◎	事前に、利用者や家族から意見や要望を聞き、医師や看護師等からアドバイスを受け、把握した情報をもとに、利用者の視点に立ち、どのようなことを求めて、何が必要なのかを職員間で検討している。また、ケアカンファレンスなどの中で、利用者や家族の要望を聞いて把握し、サービス内容に反映されるよう努めている。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	検討に基づき本人の気持ちや大切に暮らしている様に課題の把握に努めている。	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人や家族の思い希望を聞きながらプランに上げている。	/	/	/	各ユニットの計画作成担当者が、把握した内容をもとに、利用者ごとの担当職員や、他の職員の意見も取り入れながら介護計画の原案を作成し、管理者が最終の確認をしている。また、利用者や家族の意見や要望のほか、主治医等の指示やアドバイスなどを反映し、具体的なサービス内容を取り入れ、個性のある計画作成にも努めている。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	1か月ごとにモニタリングを行っている。何か課題があれば、本人や家族と相談している。対応が難しい時は、他の関係者に相談し作成している。	○	/	/			
c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度になっても日々の過ごし方や安心して暮らせるような内容になっている。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族との協力体制は取れているが、コロナ禍で地域との協力体制は取れていない。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	1か月ごとのモニタリングを行い24時間シートに記録しているので把握、理解している。何か有れば皆で話し合い共有している。	/	/	/	ケアカンファレンスなどの中で、介護計画の内容を職員間で共有するとともに、職員が確認しやすいように、一人ひとりの利用者の24時間シートに番号を付けて、日々のサービスの実施の有無や状況を記録に残している。また、月1回モニタリングを行い、職員間で介護計画に沿ったサービスの実施状況のほか、利用者の現状を確認している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	プランに沿って実施様子など記録している、何か有れば職員同士話し合い支援につなげている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	利用者によって3ヶ月、6ヶ月の方がいる、期間に応じて見直ししている。	/	/	/	介護計画は、3か月に1回を基本として、見直しをしている。また、担当職員が一人ひとりの利用者のサービスの実施状況等を確認して、モニタリングを行い、月1回カンファレンスの中で、計画が利用者の現状に応じた内容になっているかを確認している。さらに、計画の見直し前には、計画作成担当者が評価をしている。加えて、大きな身体状況等の変化が見られた場合には、随時話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	1か月ごとにモニタリングを行っている。何か課題があれば、本人や家族と相談している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	本人に変化があれば其の都度本人、家族等その他関係者と話し合う、現状に合った新たなプランを作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月末モニタリングを行っている、課題、緊急案件がある場合には其の都度話し合っている。	/	/	/	ユニットごとに、月1回ミーティングとカンファレンスを行い、職員間で情報共有や伝達、意見交換をしている。なるべく多くの職員が会議に参加できるように、事前に日程や時間などの調整をしている。また、参加できなかった職員には会議の議事録を確認してもらうとともに、重要事項は口頭で伝えるなど、職員間の情報共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ち等を率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	会議は、担当の方から話して頂きそれについて意見を出し合ったり、気づきなど意見交換が出来るやすいよう気を付けている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	会議は、出来るだけ多くの職員が参加出来る様調整している参加出来ない職員には伝達研修を行い共有している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	日々の申し送り、情報伝達等は申し送りノート、日誌、24時間シートに記録し皆で共有している。	○	/	/	日々、職員の勤務交代時に、申し送りを実施している。必ず出勤時に申し送りノートを確認し、確認後に職員は押印し、情報の伝達漏れがないようにしている。毎日記録する一人ひとりの24時間シートには詳細な記録が残され、利用者の1日の流れがよく分かり、職員は状況を把握しやすくなっている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者に何かしたいことないか等聞きながらそれを叶えられるよう努力している。コロナ禍で外出、外食は中止面会も超越なので難しい所もある。	/	/	/	毎月、生け花や習字、工作などのクラブ活動の機会が設けられ、利用者は好きなことを選んで参加をしている。利用者自らが飲み物や着る物などを選ぶ機会が多いほか、自分で選択することが難しい利用者には、職員が季節に応じた数種類の服を提案するなど、自己決定してもらえるような工夫をしている。また、月2回のおやつ作りや敬老会の行事などを取り入れ、利用者を楽しみのある生活が送れるよう取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	行事、クラブ、等参加はほとんど自分で決めてもらっている。又入浴時の着替えも職員が用意し利用者に選んでもらっている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	出来るだけ自分のペースであわせて頂いているが介助が必要な方は声掛けしながら本人の気持ちを大切にしている排泄はチェック表を参考に声掛けている	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	コロナ禍で色々制限がある中10月にミニ運動会実施皆さん元気に体動かし笑いも見られた。今は、笑いのある生活が送れるよう支援していきたい。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	意思疎通が出来にくい利用者でも表情、言葉のはしばから読み取ることもできる本人の希望に沿った暮らしが送れるよう支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、自立たずさりがない言葉かけや対応等)	◎	不適切ケアチェックを行い、人権、尊厳を大切に支援している人前で大きな声でトイレの声掛けしたり、横を通る時無視したりすることのないよう、常に意識して行動するよう心がけている	○	○	○	勉強会等の中で、人権や尊厳、プライバシーなどを学び、職員は理解をしている。年4回、法人独自の不適切ケアチェック表を活用して、職員は自己評価や振り返りを行っている。チェック表には、「排泄時の声かけ、おむつやパッド類を目につく場所に置いていないか」などの項目が設けられ、職員はあからさまな言動が行われていないかの注意喚起にも繋がっている。また、居室の入室時には、ノックや声かけをしての入室の周知徹底を行い、利用者がリビングにいる場合にも、一言声をかけてから、入室することができている。さらに、作成した接遇の標語をリビングに貼り出し、日頃から職員は声かけや言動に注意を払い、意識した対応を心がけている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排泄時、入浴時声掛け、プライバシーには気をつけている。利用者が嫌な思いをしない様配慮しながら介助を行う。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入る時は本人に説明して許可をもらってから入っている。おられない時は、ノックして十分に配慮しながらは入っている	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	利用者のプライバシーや個人情報漏えい防止については理解し遵守している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	職員は、利用者から学ぶ事も多い、お互いに「ありがとう」と言える関係性を大切にしたい	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性や性格などを把握し、配席の考慮をしたり、注意深く見守りをしたりするなど、大きなトラブルが起こらないよう心がけた支援に努めている。また、利用者が孤立することなく、穏やかに生活が送れるように、職員は間に入り、利用者同士の仲を取り持つなどの支援にも努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	職員は、利用者同士が共に助け合い支え合って暮らしていくことの大切な事を理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者同士一方的に思い込み誤解されている時もある職員が中に入り話しても聞き入れようとしない時間を置いて対応するが聞き入れようとされないで席替えて様子見る、横に座られた利用者が良く話しかけられるので今わトラブル事もなく過ごされている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	利用者同士のトラブルは思い込みが多い職員がいくら説明しても聞き入れようとはされない様子見ていると次第にお落ち着かれる、他の利用者に不安がられないよう寄り添っている	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	基本情報やフェンスシート等を活用したり本人、家族から聞いたりしている。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	今は、コロナ禍で面会も窓越で行っている。ドライブも車窓からなので友人に会ったり馴染みの場所へ出かけることの支援は余力出ていない。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	意志表示が困難な方で体調に気を付けながら外に出れる用支援している。外出の時間帯等は、GHの車、運転手が居ないで他の部署から来て頂いている為日程が変更になる場合もある。	○	x	○	コロナ禍や感染対策が続き、外出制限が続いていたが、月1回デイサービスの車を活用して、車いすの利用者と一緒にドライブに出かけ、お寺の参拝やコスモスの花を見に行けるようになり、利用者に喜ばれている。希望に応じて、家族と一緒に、お墓参りなどの外出をする利用者もいるが、その後の数日間は居室内を中心に生活を送ってもらうなどの感染対策を講じている。また、天気の良い日には、敷地内に出て、散歩や外気浴をしたり、駐車場でバーベキューをしたりするなど、外の空気を感じながら、少しでも利用者が気分転換を図れるよう支援している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	今は、コロナ禍で出ていない。家族による外出は出来ている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	職員は認知症等の研修、勉強会などで理解している。利用者の状態が変化した場合24時間シートの記録を参考に職員同士で話し合い共有し、支援している。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりのできることや一緒に行えばできそうなことを把握し、過剰に手や口を出し過ぎないように見守りや待つ介護に努めている。介護計画の中に、筋力維持のためのスクワットや歩行訓練を取り入れ、心身機能の維持を図る利用者もいる。廊下には、利用者の歩いた距離が分かりやすいように表示し、次回のリハビリの際に、やる気に繋がるような工夫も行われている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	毎日朝の体操、朗読、唄、口腔リハビリ等を行い現状維持に努めている。又排泄面、日中は、トイレ誘導を行いオムツにならない様支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	利用者の出来る事はしてもらっている。おやつ作りは一緒にしている。洗濯もの干し、たたみ等はして頂いている。少しでも役割が持てる様支援している。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	基本情報やフェンスシート等を活用したり本人、家族から聞いたり。一緒にいると本人の楽しみ事がわかることがある。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、テーブル拭きなど、生活の様々な場面で、職員は声をかけ、利用者の負担にならない程度に、得意なことや好きな役割や出番を担ってもらえるよう支援している。高齢化や重度化に伴い、利用者のできることは減ってきているものの、おやつ作りの際に材料を混ぜてもらするなど、少しでも役割を担ってもらえるような支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	利用者が楽しく過ごして頂けるよう、行事、クラグ、風船パルなど本人の楽しみ、洗濯もの干し、たたみ等役割、出番が、少しでも作れるよう支援している。	○	○	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	利用者の中には、毎日4～5回服を着替えたり、髪を整えたりアクセサリーを身に付けて楽しんでいる。職員も把握している				各居室には、洗面台が設置され、起床時に、職員は声をかけ、着替えや身だしなみを整えてもらい、見守りやできない部分のサポートをしている。中には、電気シェイバーを使用して、器用にひげを剃る利用者もおり、職員は剃り残しなどの確認をしている。また、整容の乱れや汚れが見られた場合には、利用者の羞恥心に配慮して、さりげなく声をかけてフォローをしたり、居室に移動して着替えてもらったりなどの対応をしている。さらに、2か月に1回訪問理容の来訪があり、利用者のタイミングに合わせて、好みの髪型に整えてもらうとともに、状態に応じて、ベッド上で散髪をしてもらうなどの対応をしている。現在、事業所には寝たきりの利用者までではないものの、ベッド上で過ごすことが多い場合にも、日中には洋服、夜間にはパジャマに着替えてもらうなど、メリハリのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	利用者ひとり一人の個性、好みを大切にしている。髪型も自分で言われる方もいる、服装も自分の好みのもを着られている。出来るだけ好みのものを支援している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	自己決定がしにくい利用者には職員が寄り添い本人の気持ちに沿って支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	コロナ禍で外出は、車窓からのドライブだけ後は中止している。その人らしい服装で楽しめるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカパーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	整容の乱れ、汚れ等に気が付いたらさりげなく居室に戻りカバーしている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	今は、コロナ禍でこちらに来られている移動美容室を利用されている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	重度な状態であっても整容、服装等本人らしさを保てる様支援していきたい。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	職員は食事の一連プロセスの意味や大切を理解している。				隣接の複合施設の厨房で調理された食材が毎食届けられ、各ユニットで職員が炊飯や汁物作りを行い、盛り付けをして利用者に食事を提供している。コロナ禍や感染対策が続き、利用者が盛り付けを手伝うことは休止しているが、毎月一緒におやつ作りが行えるようにしている。アレルギーや苦手な食材に配慮し、代替えのメニューを用意することもできている。また、季節に応じた行事食や懐かしさを感じるメニューも取り入れ、食事が利用者の楽しみになるよう工夫している。食器類は、入居時に使い慣れた物を持参して使用することもできる。利用者の状態に応じて、刻み食やミキサー食などの食の形態にも対応をしている。感染対策もあり、食事の際に、職員は利用者の見守りや介助を行い、利用者との時間帯に食事を摂っている。さらに、ほとんどの利用者はリビングに出て、食事を摂ることができおり、食事の準備の音や匂いを感じることができるとともに、リビングのホワイトボードには1日の献立が書かれ、食事が待ち遠しくなるような工夫も行われている。加えて、施設の管理栄養士が作成した献立は栄養バランスが取れ、職員間で食べやすい食の形態などを話し合うとともに、必要に応じて、管理栄養士に相談することもできている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	食事は、厨房から出ている。利用者職員で行っている事は、おやつ作り。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	今は、おやつ作りを職員と一緒にやっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者の苦手なもの、アレルギーの有無については把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音つかしいもの等を取り入れている。	○	献立は施設の管理栄養士が立てている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者一人ひとりの状態あわせている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	茶碗、コップ、箸などは、個人で持ってきて頂いてる。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者の中には介助が必要な方口の中に次々と入れられる方もおられるので職員は、時間をずらしている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	重度な状態であってもご飯炊きや、カレー、すまし汁等はユニットごとで調理しているので匂い音や雰囲気作りには気を付けている。		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	栄養バランス、カロリーは施設の管理栄養士が行っている。水分摂取量の少ない人はチェック表に記録し少しでも多く摂取出来る様声掛けを行っている				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	利用者の中には、やおやつ、飲み物もジュース、コーヒー持ってきて来られている。食事、水分チェック表に記録し参考になっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	食事は、厨房から出ている為行っていない、			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食器、調理道具等の消毒は、1週間に1回行っている。(食中毒予防のため)				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの研修を毎月実施、重要性を理解している。	/	/	/	毎月、歯科衛生士の資格を持つ法人内の職員に指導してもらうとともに、定期的に研修を実施し、職員は口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、各居室の洗面台で口腔ケアを実施し、必要に応じて、見守りやサポートをしている。介助が必要な利用者の口腔内の状況までは確認することができていないため、今後は、定期的に全ての利用者の口腔内の状況を確認し、記録に残せることを期待したい。さらに、利用者の訴えや異常が見られた場合には、早期の受診に繋げている。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	自分で歯磨きされている利用者には、何か訴えがあった時確認している。介助が必要な利用者については口の中、舌の状態、義歯、等確認している。	/	/	/		○
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯科衛生士から指導を受け日常の支援に活かしている。	/	/	/		/
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯の洗浄は利用者にして頂いている、ポリドントは職員が入れ預かっている。	/	/	/		/
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	口の中の汚れ、臭い、等見られる方は家族にお願いしてモンダミン、イソジン等買って頂いている。何か有れば受診の支援を行っている。	/	/	/		/
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	職員は理解している、日中はトイレで排泄が行えるよう介助行っている。立位が少し困難になってきた人も二人介助でトイレ誘導を行っている。	/	/	/	事業所では、可能な限り利用者がトイレで排泄できるように、声かけやトイレ誘導をしている。チェック表で一人ひとりの利用者の排泄状況を把握し、職員はタイミングを図りながら、こまめな声かけやトイレ誘導を行い、パッドの使用の必要なくなった利用者もいる。ほとんどの利用者は紙パンツを履いて生活を送っているが、不安等から夜間のみおむつを使用している利用者もいる。また、利用者の排泄状況に応じて、パッドや紙パンツなどの排泄用品の適切な使用を職員間で話し合い、家族等に相談の上で使用をしている。さらに、立位を取ることが難しい利用者にも、日中には2人体制でトイレでの排泄介助を行うこともあり、安易におむつに頼らないような支援にも努めている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	職員は、便秘にならない様水分摂取や、廊下を歩行練習して予防に努めている。	/	/	/		/
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排尿チェック表に記録しパターンの把握に努めている。	/	/	/		/
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	紙オムツ、紙パンツ、パット等必要になった時、利用者家族、職員で話し合っている。大きさもその時々状態を支援している。	/	◎	/		◎
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	食事や、水分量、排尿パターンを把握しながら改善出来ないか職員どうして話し合っている。	/	/	/		/
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	利用者の殆どの方がトイレに行かれたり、声掛けられる。足元が不安定な方には見守りを御粉つて居る	/	/	/		/
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	オムツ、紙パンツ、パットなど使用する時は、本人、家族、職員等で話し合っている。パットもその時によって変えている。パット等はトイレに流さない様見守りを行っている。	/	/	/		/
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者の方に合わせ使い分けている。	/	/	/		/
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	毎朝、10:00～体操、唄、口腔リハビリなど利用者に合わせ廊下を歩いたり、水分、食事にも気をつけ予防に努めている。	/	/	/		/
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	個浴で一人づつゆっくり入ってもらっている。午後からは入りたいと希望があれば午後から入るのを拒否された場合は本人の気持ち大切にしている。	/	/	◎	○	週2回を基本として、午前中の時間帯を中心に、利用者が入浴できるよう支援している。入浴できる曜日や時間帯を決めているものの、利用者の希望や状態により、午後の時間帯のほか、入浴できる曜日を変更するなどの対応をしている。現在は、「毎日入浴したい」などの希望のある利用者はいないが、管理者は「今後、希望が出された場合には、できる限りの対応をしたい」と考えている。また、浴槽にはリフトが備え付けられているものの、利用者の身体状態に応じて、2人体制で入浴介助を行い、安心安全に湯船に浸かってもらえるようにするなどの支援も行われている。
		b	一人ひとりが、くつろいだり気分が入浴できるよう支援している。	◎	一人づつゆっくり入ってもらっている。本人に合わせている。	/	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人に洗える所は洗ってもらっているが、洗い直したりする場合もある。安心して入浴できるよう支援している	/	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	入浴を嫌がる方には話を聞いて再度声掛けする。無理押しはせず気持ちよく入って頂くよう心がけている	/	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前はチェック表でバイタル確認、何かあれば看護師、職員同士で話し合っている。その後も様子観察している。	/	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	/	/	/	事業所には、入居前から継続して睡眠導入剤や安定剤を服用している利用者のほか、入居後に服薬を開始した利用者があるものの、状態を確認して医師と相談しながら、必要以上の服薬になっていないかなど、服薬に頼りすぎないような支援に取り組んでいる。また、外気浴を取り入れたり、体操や歩行などを促したり、1日の過ごし方や職員への対応を工夫するなど、夜間に利用者が良眠できるように支援している。現在は、ほとんどの利用者は夜間に安眠し、十分な休息も取ることができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	夜眠れなかつたりした時は、本人や職員に聞きながら日中の活動を増やしたり、ドライブに参加の声掛けをしている。昼夜逆転しない様見守っている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	24時間シート、日誌等参考にし主治医と相談しながら支援を行っている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者の体調を看たり、本人に声掛けしている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人から訴えがあった場合は、取り次いでいる。近況報告や、年賀状書かれる利用者には支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	こちらから近況報告出す時声掛けし一言でも書いて頂くよう、声掛けし、支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	自分で携帯持っている人は自由にかけられている。電話は事務所の中なので配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙は、本人に渡し読んで頂いている、読めない人は職員が支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族も理解し協力してもらっている。面会時にまたお手紙出してあげて下さいとお願している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	職員は、理解している。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	◎	コロナ禍で買い物、外食等は中止している。以前は移動販売(とくしまる)が来ていたので利用していたが今は来ていない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	家族と相談して自分で持たれている方もおられる。とくしまるが来るようになったら支援していきたい。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	本人や家族と話し合っている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	利用者のお金は預かっていない。持ってる人は、自分で管理されている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	出来るだけニーズに合わせこちらで対応できる事、があれ取り組んでいきたい。	◎	/	○	コロナ禍や感染対策が続き、外出や面会などの制限が設けられていたが、徐々に緩和され、利用者や家族から要望が出された場合には、可能な範囲で対応をしている。面会は、玄関内でガラス越しの面会のほか、予約の必要はなく、気軽に家族は面会や差し入れを持っていくことができる。家族の希望により、家族と一緒に墓参りや実家に立ち寄り利用するもいるが、外出後のリスクに備えて数日間は居室で対応するようになっている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関は防犯防止の為施錠している。玄関や建物周囲は南天、樅木等に囲まれている。	◎	○	○	敷地の入り口には、複合施設や事業所の看板が設置され、駐車場も完備されるなど、幹線道路から近く、車で来訪しやすくなっている。また、敷地の奥側には事業所があり、玄関扉はガラス張り、事務所にいる職員から来訪者に気づきやすくなっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えにされていない等。)	◎	室内は、全部バリアフリーになっている。廊下、トイレ、浴室など手スリになっていて安全面にも配慮している。リビング、廊下には季節感のある壁面が飾られている。コロナ禍で対面にならない様に座っている。家庭的な雰囲気になるよう気をつけている。	○	○	◎	自然光が入り明るいリビングには、ゆったりと座れるソファが置かれ、利用者はテレビを見るなど、ゆっくりとくつろげるようになっていく。懐かしさを感じられる家具類は譲り受けた物が多く、テーブルクロスを使用するなど、温かみを感じることができる。また、清掃や消毒は、職員が徹底して行い、温度や湿度にも配慮して加湿器で適時保湿を行うなど、快適な空間となっている。訪問調査当日には、紅葉やクリスマスの装飾が行われ、華やかない雰囲気を感じられた。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除は、午前中と夜勤者2回行っている。整理、整頓に気をつけている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	リビング、廊下等には季節感のある壁面が飾られている。ワーククラブでも季節感あるものを取り入れている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	コロナ禍でリビングの席は1人づつか、対面に座っている為広く使用している。1人に慣れる場所は、個室になっているので居室で過ごして頂いている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	本人が大切にしていた物、使い慣れたものを持って来て頂いている。本人が、安心して過ごして頂けるよう工夫している。	◎		◎	居室には、ベッドやエアコン、クローゼット、タンス、洗面台が備え付けられている。利用者は、使い慣れた物や馴染みの物を持ち込むことができ、テレビのほか、家族が作成した愛犬の写真入り色紙や好きなアスリートの写真などを飾り、居心地の良い空間となるよう支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	利用者が安全に自分の事が少しでもできるよう配慮、工夫している。			◎	◎ 共用空間は、廊下を挟んでリビングと居室が配置されたシンプルで分かりやすい構造で、トイレや浴室の表示を分かりやすく表示するなどの工夫をしている。自分の部屋の場所に迷う利用者の居室の入り口には、名前を貼りつけ、認識しやすくしている。また、手作りの日めくりカレンダーや大きな時計が設置され、分かりやすい数字で月日や時間を確認することができるようになっている。さらに、本棚から自由に本や歌詞本などを取ることができるようになっている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	利用者の中には居室に夜間、お茶の入った急須湯呑用意している小さい鉢に観葉植物を植えたのを世話されている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	日中玄関に鍵をかけることの弊害がある事は理解している。間仕切りの出入り口は、日中は開けている事が多い。防犯予防のため職員の数も少なく、見守りが不十分であるが玄関には鍵をかけなくて済むよう工夫していきたい。	×	◎	△	職員は勉強会等で学び、鍵をかけることの弊害を理解している。法人・複合施設の方針もあり、近くに幹線道路があることから、利用者の安全面や防犯面を考慮して、玄関の自動ドアを常時施錠している。玄関と共用空間の間にある間仕切りの自動ドアを開け、少しでも開放的に感じられるようにしている。以前は、各ユニットの入り口を開放し、ユニット間を自由に歩き来できるようにしていたが、感染対策のために施錠をしている。また、利用者が外に出たい場合には、管理者が付き添って敷地内を散歩したり、ゆっくりと話を聞いたりするなど、利用者の気持ちに寄り添うような支援にも努めている。利用者家族等アンケート結果から、鍵をかけないケアの取り組みに対して、家族に十分な理解が得られていないことが窺えるため、説明や周知方法を職員間で継続して検討していくことも期待される。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	帰宅願望がある家族は安全を優先させるかたもおられる。出来るだけ外に出る機会をふやし、家族とも話し合っていく。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	職員は、基本情報、アセスメント、サマリー等で共有している。理解出来ない事があれば看護師に聞くようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	利用者に何か有れば24時間シート、日誌、申し送りノート等に記録して早期発見出来る様共有している。				
		c	気になることがあれば看護師やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	気になることがあれば看護師やかかりつけ病院に相談している。重度化にならないよう早目に相談して適切な入院につなげる場合もある。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	利用者、家族と相談し希望する医療機関、医師につなげ受診出来る様支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人、家族の希望を大切に、納得が得られた病院と、事業所の関係を築きながら適切な医療が受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	病院の対応は家族にしている。家族が行けない場合病状によっては看護師が管理者が同行する場合もある。結果の報告は家族、施設に報告される。家族が行けなかった場合は、主治医の方から家族に報告される。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院する場合医は、情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	安心して治療が出来るよう関係者との情報交換をおこなう。利用者が病院では落ち着かないので予定より早く退院して帰ってくる場合もある。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	職員は気づき、情報などかかりつけ院や協力医療機関、看護師に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	かかりつけ医療機関に24時間いつでも相談できる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	健康管理や状態に変化があれば、支援が適切に出来る体制を整えている早期発見、治療につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	職員は、薬などの目的や、用途、用量など医師や看護師、処方箋などで理解している、わからなかったらインターネット等で調べている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	利用者の服薬支援はマニュアルに沿って支援している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	利用者のバイタルチェック等を参考に本人の心身の状態や表情、便秘の様子など変化がないか様子観察をおこなっている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入所時や状態変化があった場合に本人、家族と話し合いその意向を確認しながら方針を共有している。				事業所では、「看取りに関する指針」を整備し、入居時に家族等に対応できることなどを説明し、意向を確認している。また、状態の変化や重度化した場合には、再度家族の意向を確認するとともに、医師や関係者を交えて話し合い、方針を決定している。さらに、複合施設や協力医が近くにあることから、転院する利用者も多く、事業所として、今までにほとんど看取り支援を経験していない状況となっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	重度化した場合、終末期のあり方本人、家族主治医に話し合い方針を共有している。GHでの看取りの体制が整っていない事を伝えている。出来るだけGHで過ごして頂き最後医療機関が特養に本人、家族、医師と話し合っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	利用者の重度化によって現状ではどこまで対応出来るか見極めを考えている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所説明の時どこまで対応できるか説明している。重度化によって対応出来るか話し合いながら進めている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期に入ったらチームで支えていく体制が整っていない。今後の変化に備えて話し合いながら進めて行く。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族に寄り添い、傾聴しながら支援していきたい。思い詰めないように支えていきたい				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	職員は、研修等に参加して学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症が発生した場合マニュアルに沿って対応している。シュミレーションも手順に沿って出来るよう実施している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	5類に移行してからは対応していない。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員は、手洗い、うがい、消毒継続して行っている。利用者にも声掛け、介助を行っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	今は、コロナ禍で面会も休憩になっているので家族とお話する事も少なくなった。一緒に本人を支えていけるよう支援していきたい。	/	/	/	以前は、家族会を実施することができていたが、コロナ禍や感染対策が続き、現在は開催を休止している。また、現在は家族の参加できる行事やイベントを開催することはできていない。運営推進会議は書面開催が続いていたが、令和5年の夏から、集合形式の会議が再開され、家族にも案内を送付し、1名ずつ参加してもらうようになっている。年4回事業所便りを発行し、家族に送付して利用者の様子を伝えるとともに、月1回事業所の行事をカレンダー様式にまとめて送付をしている。さらに、担当職員が手紙を書くほか、来訪時や電話連絡時を活用して、家族に利用者の近況を伝えている。加えて、家族との面会は、窓越しの状態となっているもの、事前予約を必要とせず、気軽に家族が面会に来訪できるようになっている。利用者家族等アンケート結果から、事業所の出来事や職員の入退職が十分に伝わっていないことが窺えるため、事業所便りを活用して、新たに配属された職員を紹介したり、面会時に職員の異動をお知らせしたりするなど、理解が得られるような取り組みが行われることを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	◎	コロナ禍で出来ないがGH前を娘さんと時々散歩されている方がおられる	○	/	◎	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	面会に来られら時、会話の中でくみ取ることが出来るよう努めている。利用者の暮らしぶり様子が分かるようGHだより写真いりて発行し送付している。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	本人より一度家に帰りたい、お墓参りに行きたいとの希望があつたがコロナ禍でいけなかったが10月末に行く予定になった	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	行事予定表、職員の移動、退職は(運営推進会議の資料にて報告)設備改修、機器の購入は行っていないが必要に応じて報告したい。	x	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	◎	利用者起こり得るリスクについては家族に説明し話合っている安全、安心して暮らして頂けるよう努める。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	今は玄関での面会なので落ち着いて職員とお話しが出来る様な雰囲気作り等に努めたい。早く自由に面会が出来るような日常生活が戻るようになれば次のステップに踏み出す事が出来ると思う。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約が終了後、内容に変更がある場合説明を行い理解、して頂けるよう努める	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	転居については、前もつてお話し、しているので、理解して頂けるよう、主治医からも説明して頂く事も有る。退去先に移れるよう支援を行っている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	x	コロナ禍で地域との交流は4年ほど中止になっている。交流が出来る様になれば改めて説明、理解して頂けるよう努める。	/	○	/	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	面会が自由に出来る様になれば地域の人達とも交流を図りたい。日頃から交流出来るよう働きかけたい。	/	x	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	利用者、が地域の中で少しでも多くの人に支えてもらいながら安心して暮らして行けるよう支援を行いたい。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	お祭りに、提灯行列、翌日お神輿が入り見学する事が出来た	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	今は、出来ていないが、お祭りに、提灯行列、翌日にはお神輿が入り見学する事が出来た	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりを充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	お祭りには、民生委員の方の協力により夕方、子供達がGH玄関まで提灯行列に、翌日にはお神輿が入り見学する事が出来た。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	x	今は、出来ていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	運営推進会議には、コロナ禍でまだ面会が出来ない為利用者の参加は中止にしている。	○	/	/	コロナ禍や感染対策が続き、運営推進会議は書面開催が続いていたが、令和5年の夏から集合形式の会議を再開することができている。書面開催においても、アンケート方式で会議の参加メンバーに意見や要望を聞くとともに、対応方法などを記載した会議録を参加メンバーや全ての家族に送付することができていた。家族の参加は、現在1名ずつに限定しているが、民生委員や市担当者、地域包括支援センター職員などに、利用者の様子や行事などを報告し、意見交換をすることができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	運営推進会議の報告、外部評価等について報告、議事録を公表している。	/	◎	◎	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	今は、参加メンバーは増やしていない。日程、時間帯、は参加メンバーに聞いて調整している。	/	○	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	事業所の理念は当時の職員で考え決めた。見えやすい所に掲げ日常的に取り組んでいる。	/	/	/	大規模法人で、医師である代表者は事業所に来訪することは少ないが、日常的に、隣接する複合施設の施設長や副施設長の来訪があり、事業所内の様子を見たり、管理者から事業所の様子や意見を聞くことができている。必要に応じて、施設長等と管理者が相談するほか、職員から出された意見を伝えることもできている。訪問調査日にも、施設長と副施設長が調査に同席する場面もあり、事業所の取り組みの話が聞くことができた。また、感染対策もあり、職員が集まる機会は少ないものの、定期的に勉強会等を実施し、職員のスキルアップにも努めている。さらに、管理者は職員から意見を伝えやすい環境づくりを行うほか、時間外勤務を削減に努めたり、希望休や有給休暇の取得を促したりすることもできるなど、職員との良好な関係も築かれている。大規模法人であるが、基本的に、法人内の職員の異動も少なく、勤務年数の長い職員も多くなっている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	以前は、面会時等に伝えていたが今や玄関で窓越氏なので伝えてないことが多い地域の方との交流も中断して伝わ	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	計画的に法人内の研修を受ける事が出来ていたコロナ感染予防のため中止になっている。	/	/	/	大規模法人で、医師である代表者は事業所に来訪することは少ないが、日常的に、隣接する複合施設の施設長や副施設長の来訪があり、事業所内の様子を見たり、管理者から事業所の様子や意見を聞くことができている。必要に応じて、施設長等と管理者が相談するほか、職員から出された意見を伝えることもできている。訪問調査日にも、施設長と副施設長が調査に同席する場面もあり、事業所の取り組みの話が聞くことができた。また、感染対策もあり、職員が集まる機会は少ないものの、定期的に勉強会等を実施し、職員のスキルアップにも努めている。さらに、管理者は職員から意見を伝えやすい環境づくりを行うほか、時間外勤務を削減に努めたり、希望休や有給休暇の取得を促したりすることもできるなど、職員との良好な関係も築かれている。大規模法人であるが、基本的に、法人内の職員の異動も少なく、勤務年数の長い職員も多くなっている。
		b	代表者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	業務、入浴などがあり時間が中々取れないが出来る限り勉強会が実施出来るよう取り組んでいきたい。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	ベースアップ加算に対応し、職員のモチベーションアップに努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	運営推進会議を行っている。地域のネットワーク作りにも参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレスチェックを年に1回実施している。話をしやすい環境づくりに努めている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	職員は、虐待、不適切ケアについて研修等参加、理解している。職員同士声掛けあいながら見逃ごすことのないよう気をつけている。発見した場合の対応方法は理解している。	/	/	◎	虐待防止委員会の中で話し合いをするとともに、勉強会等で虐待や不適切ケアの防止を学び、職員は理解をしている。また、法人独自の不適切ケアチェック表を活用して、年4回職員自らが記載し、利用者に対する声かけや言動を具体的に振り返る機会を設け、意識した対応に繋がっている。さらに、不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、管理者等から指導や注意喚起をしている。加えて、年1回職員のストレスチェックを実施するとともに、日頃から管理者は職員の様子に気を配り、声かけや相談に応じるなどの対応をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	職員と共に何かあればその都度話し合い決まった事は申し送りノート、日誌、24時間シートに記録し皆で周知している。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ストレスチェックを年に1回実施している。個人個人にアドバイスが書かれている。何か落ち込んでいないか気をつけている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	職員は、拘束はしないケアに取り組んでいる。「緊急やむを得ない場合」についてはみんな理解している。	/	/	/	大規模法人で、医師である代表者は事業所に来訪することは少ないが、日常的に、隣接する複合施設の施設長や副施設長の来訪があり、事業所内の様子を見たり、管理者から事業所の様子や意見を聞くことができている。必要に応じて、施設長等と管理者が相談するほか、職員から出された意見を伝えることもできている。訪問調査日にも、施設長と副施設長が調査に同席する場面もあり、事業所の取り組みの話が聞くことができた。また、感染対策もあり、職員が集まる機会は少ないものの、定期的に勉強会等を実施し、職員のスキルアップにも努めている。さらに、管理者は職員から意見を伝えやすい環境づくりを行うほか、時間外勤務を削減に努めたり、希望休や有給休暇の取得を促したりすることもできるなど、職員との良好な関係も築かれている。大規模法人であるが、基本的に、法人内の職員の異動も少なく、勤務年数の長い職員も多くなっている。
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修や、その場で身体拘束に当たるのか利用者や現場の状況を見ながら話し合う事もある	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	◎	家族から拘束の話があった場合、弊害について、身体拘束を行わないケアの取り組みをしていることを伝え、話し合いをしながら理解して頂くよう支援を行う。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	研修には参加し理解している。相談があった場合は、説明が出来る支援を行う。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターには連携体制を築いている	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	対応マニュアルを作成している。周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	毎年、消防署の方に来て頂き研修があり順番に参加していたがコロナ禍で中止になっている。勉強会を開き対応出来る様にしたい	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットに記録し話し合い再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	皆で話し合い、リスクや危険な場合見守りを強化して事故防止に努めている事故防止大委員会開催している。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルは作成している。職員はそれを理解している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	今のところ地域からの苦情は、寄せられていない。寄せられた場合には、手順に沿って対応していきたい。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	今のところ苦情は来っていない。速やかに回答するとともに、納得を得ながら前向きな話し合いと関係作りを行う。よう努めていきたい、	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	玄関に、意見箱を置いている。契約時に本人、家族には説明している、	◎	/	◎	日々の生活の中で、職員は利用者へ声をかけ、意識して意見や要望を聞くとともに、思いをくみ取るようにしている。家族には、介護計画の更新時のほか、定期的に電話連絡や面会時に、職員から声をかけて、意見や要望を聞いている。また、窓越しの面会時にも、職員から家族に声かけ、利用者の様子を伝えるなど、話しやすい雰囲気づくりにも努めている。さらに、経験の長い管理者は、職員から意見や提案を伝えてもらったり、気軽に相談に応じたりするなど、出された意見を検討しながら、より良い支援に繋げている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	利用者、家族等に面会に来られた時伝える事もある	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	現場にも来られ、職員の話を直接聞く機会を作っている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員の意見や提案は聞くようにしている。利用者本位の支援をしていくための参考にした。	/	/	◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年1回自己評価実施している。	/	/	/	外部評価の自己評価は、管理者を中心に作成をしている。サービスの評価結果や目標達成計画は、運営推進会議の中で報告しているものの、文書開催に留まっているため、利用者家族等アンケート結果からサービス評価の取り組みに対して、十分な理解が得られていない状況となっている。今後は、集合形式の運営推進会議や家族会の中で、サービス評価の意義や目的を説明したり、目標達成の取り組み状況のモニターを呼びかけて、意見をもらったりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	目標達成計画を作成したx達成に向け取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	x	運営推進会議で報告している。アンケートでの報告なので意見は聞かれなかった。	x	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	x	運営推進会議はアンケートだったので確認はとれていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	対応マニュアルは作成している。	/	/	/	<p>複合施設と合同で、年2回火災や水害など様々な災害を想定した避難訓練を実施している。また、消防署の協力を得るとともに、水害を想定して、複合施設の2階に垂直避難する訓練も実施している。以前は、地域の防災訓練に参加協力をしたり、地区の防災士等と一緒に合同訓練を実施したりすることもできていたが、感染対策もあり、現在は自粛をしている。利用者家族等、家族アンケート結果から、災害の備えに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、今後は、運営推進会議に合わせて、避難訓練を実施して参加メンバーと意見交換をしたり、事業所便りを活用して、訓練の様子を知らせたりするなど、周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。また、民生委員に災害発生時の緊急連絡先になってもらっていることもあり、負担の少ない支援方法の話し合いが行われることも期待される。</p>
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	利用者が、安全に避難出来るよう訓練を計画、実施している。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	消火設備点検、避難経路の確認している非常用食料等行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	合同訓練、話し合いコロナ禍の為出来ていない。支援体制は確保できている。	×	×	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	コロナ禍で共同訓練は出来ていない	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	コロナ禍で、できていない	/	/	/	<p>複合施設には、在宅介護支援センターや居宅介護支援事業所が併設され、地域住民から相談が寄せられた場合には、関係機関と連携を図りながら、適切に対応をしている。以前は、ボランティアの受け入れに協力したり、複合施設として、認知症カフェを開催したりすることもできていたが、感染対策が続き、現在は休止をしている。また、実習生の受け入れには協力をしている。さらに、会議や研修に参加する機会は減っているものの、市行政や地域包括支援センターなどと関係機関と連携を図りながら、良好な関係を築いている。今後は、感染対策の緩和に伴い、徐々に認知症カフェやボランティアの受け入れなどが再開していくことも期待される。</p>
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があった場合、居宅支援センターに取り次いでる。	/	△	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ禍で活用出来ていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ禍で受け入れていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	コロナ禍で行っていない	/	/	○	